小さな工夫が大きな力に

日野中学校　一年　宮本　紬希

何か協力してほしいことがある時、ただ呼びかけるだけでは、なかなか人は動いてくれないことがある。それを強く感じたのは小学校六年生の時だ。

私の小学校では委員会でアルミ缶回収をしていた。私が六年生の頃から月に一回することが決まった。アルミ缶回収は朝早くから学校に行き、登校してくる人からアルミ缶を回収し、最後に集まったアルミ缶を数えるまで仕事だった。始めた頃は思うように集まらず苦労した。また、野外での活動だったため、夏は暑く、冬は寒くて、とても大変だった。

朝早くから学校に来て準備をしているのにあまりアルミ缶が集まらないと、ここに立っている意味がないと思っていた。しかし、私は委員長だったのでみんなのために仕方がなく回収を続けていた。

そんな中で、このままではいけないと思い、

アルミ缶が集まらないのには何か理由がある。

と考えた。アルミ缶回収をしている家族

に伝えられていない人がいるのかもしれない。

いつ回収をしているのかわかっていない人が

いるのかもしれない。そう考えた私はいくつ

かの工夫をすることにした。一つ目はアルミ

缶回収のチラシを二週間前と三日前の二度渡

すようにすることだ。一度知らせただけでは

忘れてしまう人もいるからだ。二つ目はアル

ミ缶を集める目標を決め、それを全校に伝え

ることだ。ただ「協力してください」と呼び

かけるだけでなく、「みんなで目標を達成し

よう」と呼びかけることで一人一人が少しで

も協力してくれると思ったからだ。三つ目は

毎月二十日とアルミ缶回収の日を決めること

だ。日を決めることで習慣がつき、覚えやす

くなるからだ。四つ目はアルミ缶回収の日を

二日間設定することだ。一日目に持ってくる

のを忘れても、二日目に持って来ることがで

きるからだ。また、二日目には目標まで何個

20 × 20

集まれば良いのかを全校に伝え、目標達成まであと少しだということを意識できるようにするためだ。他にもたくさんの工夫をした。

それでも、工夫を始めた直後は本当にこれで集まるようになるのか不安だった。しかし、工夫を重ねていくと、変化が見えてきた。家でアルミ缶を回収日までためてくれて回収日に学校に持ってきてくれる家庭が増え、以前よりもたくさんのアルミ缶を集めることができた。アルミ缶がたくさん入っている袋をかついで持ってきてくれる子や、集まったあとのかごいっぱいに入っているアルミ缶を見ると今まで頑張ってきた甲斐があったと嬉しく思った。そして、目標を達成すると、全校のみんなが喜んでくれた。その姿を見ると自分も胸がいっぱいになった。

さらに、集まったアルミ缶はお金になり、そのお金は学校や地域のために使われた。自分たちが集めたアルミ缶は誰かの役に立つことを知り、アルミ缶回収には大きな意味があ

ることに気付いた。最初は「集まらないのに朝早くから準備し、立っている意味がない」と思っていたが、最後には「もっとたくさん集めたい」と思うようになった。このアルミ缶回収は次の学年にも引き継がれて、今も続けている。

私はこの経験から、始めはうまくいかない原因を考え、工夫をすることでも、うまくいかない原因を考え、工夫を重ねることが大切だということを学んだ。

また、一人の力だけでは大きなことはできないが、一人一人が少しずつ行動すれば大きな力になることも学んだ。小さな工夫が、たくさんの人の協力につながったのだ。

私は「社会を明るくする」ということは特別なことではないと思う。困っている人のために動いたり、地域の活動に積極的に参加したりすることも社会を明るくすることにつながると思う。このような小さな行動が周りの人に広がると、少しずつ社会が明るくなっていくだろう。

中学校でもうまくいかないことがあってもすぐにあきらめず、どうすればうまくいくのかを考え、工夫を重ねていくことを大切にしたい。そして、アルミ缶回収のような地域や周りのために行っている活動があれば、積極的に参加していきたい。また、そのような活動がなくても、自分ができることを考え、行動に移せるように頑張りたい。これからも、小さなことでも自分から積極的に行動し、その小さな工夫や行動を社会を明るくする大きな力につなげていきたい。

20 × 20